

【ねがいましては】

平成26年7月25日

KYOWA SCHOOL

第285号

「消しゴム」

けしごむの記事をどこかで読み、その余韻がなかなか取れないでいます。ある教育関係者の方のご発言だったと思います。「消しゴムを使ってしまうと、過去の足取りが消えてしまい、どこで間違えたかがわからなくなってしまう。だから本来、教育の世界ではけしごむの使用は避けたほうが良い。」のような内容であったと思います。

私もかなり以前より、消しゴムに関しては気にかけていました。その特徴が、勉強に自信を持ってない子は、消しゴムの多用するという事です。

これは消しゴムから見えてきた二つの側面です。ここでは後者について掘り下げてみたいと思います。

消せるものなら消し去ってしまいたい。思い出したくない。といった内面からの叫びを反射的に行ってしまうのでないかということです。過去のトラウマ、あのときの母の一言が消えない、あのときの先生の一言が消えない、あの時の友だちの一言が消えない……。目をつむると鮮明に浮かび上がってしまう光景を、今すぐに消し去ってしまいたい。そのような、自分では全く気付かないものを消したいがための反射的行動が、内面で働いているような気が致します。

では、消しゴムの持つ二面性について私が感じたことを……。

正常ではと思われるものです。脳裏に次々と浮かんでくることを短時間で書き上げてしまいたい。どうしても書き方が早くなる。書いている間にも、あふれるように言葉が浮かんできてしまい、指の動きと言葉の浮かびのリズムが微妙に狂った瞬間、「あっ！」という間違えです。これはこころがかなりのスピードで前を向いている瞬間です。書こうという気持ちが先へ行ってしまると同時に、書き留めなければという言葉の溢れがバランスを崩してしまうときのミスだと思えます。

次が「？」がついてしまう行動です。小学校低学年当時から癖になっている子が多くいるのがこのタイプです。小学校へ入学し、希望に夢あふれながら通っていた時期から、「評価→テスト」が始まり、最も陥りやすいのが「母の一言」。

「こんな簡単なところもわからなかったの？」「こんなやさしいところを間違えちゃったの？」といった内容の発言です。本人からすれば、間違えたくて間違えたわけではないのに、十分自分が悪いことはわかっているのに、輪をかけてさらに追い打ちの言葉が出るなんて……。こころからお母さんを尊敬しているのに、お母さんに迷惑をかけたくないのに、なぜそんないじめに近い言葉を浴びせるの……といったような気持ちです。そして現れるのが、「私は一生懸命にやっているの、ぼくは精一杯やっているんだよ。」です。その証明として「消しゴム」が登場します。

そんな気持ちを分かかってほしい、というひとつの心の表れが消しゴムの多用だと思えます。

書いて消す、書いて消す、の繰り返しをする子は、そんな不安定な心の状態になっているのではと思います。「学ぶ」という本来の姿からは程遠い状態になっています。これでは悪循環が繰り返されるだけで、お母様が望んでおられる「成績」はほとんど望みがなくなります。と同時に、そのようなお子さんの心の状態を作ってしまった原因は、お母さんご自身であるかもしれないのです。

そのような症状のお子さんをたびたび見かけてきましたが、ほとんどと言っていいくらい、お母様の教育熱は高かったということです。つまりお母様が「成績」に過敏であったということです。

もう一つの症状です。こころない言葉を教室の中で浴びてしまった場合です。「おまえ、こんなところもわかんないの。」などと一度でも言われようものなら、「そんなことはない、しっかり書いているよ、ほら、しっかりペンを動かしているじゃないか。」といったメッセージを周りに発信します。それが書いて消す、書いて消す、の往復運動です。

たしかに傍目では、さもやっているような感覚にさせます。もう二度とあのような言葉を浴びたくないという、自己防衛反応の表れだと思えます。「だからもうこっちは見ないでね。」となります。

学ぶことに自信が持てない……この現象は「成績」がもたらした最大の欠陥でないでしょうか。本来「学び」は、自由に積極的に、こころをポジティブにさせていくこと。生きようとする心を育むこと。「さあ、今日はどんな学びが待っているのだろう。どんな新しいことが待っているのだろう。そしてどんな間違えがその中に潜んでいるのだろう。楽しみだなあ……。」

学びは実験の世界です。「こんなことしたらこんなになっちゃったー！」「へー、なぜなのー！」「じゃー、もう一回しっかり振り返ってみようよ。」子どもたちの瞳が爛々としているのをお感じになられると思います。

国語でも算数でも、社会でも理科でも、間違えるから面白いし楽しいはずですが。例えば国語、「もううしこんじゃっているの、ここからははいれません。」→「う」がひとつ多かったことで、「うし」がいっぱいいるので入ることができないと勘違いをします。「う」を取ると、申し込んであるので入れないとなります。

「成績」がなければ、ひよっとするとけしごむの消費量は激減するかもしれません。授業参観の際に、お子さんの手にする消しゴム、少しばかり意識してみてはどうでしょうか。頻繁に使用しているようであれば、それはお子さんの責任ではありません。ひよっとすると、お母様ご自身の過去に何かがあったかもです。これを読みながら、そっと消しゴムに手を伸ばしてはいませんか……。